

定通振興会報

長野県松本筑摩高等学校

定通振興会報

令和5年(2023年)

2月27日発行 第53号

変わるという事

教育振興会会長 赤塚 聡子

約3年間にわたる、「コロナ禍」という今までに経験したことのない制約のある生活に、世界中の人々が困惑し、今までの当たり前が当たり前でなくなるという日常が現れました。

一人一人が、その当たり前でなくなってしまった状況を受け入れ、新たに現れた日常を自分たちのものにするため、様々な変化を遂げてきたと思います。

この教育振興会も例外ではなく、今までの活動が止まり、何もできない時間を過ごしてきました。しかし昨年のくれき野祭からようやく少しずつ動き始め、それまでは焼きそば屋台を出していた例年から、おにぎりやスイーツ販売へと移行し、いつもを変えた形になりました。

今まで、この教育振興会には役員を決める明確なものがなく、なんとなく流れで決めてきたところがあります。本校は保護者同士のつながりが薄く、他校は役員決りを1本釣りと言って、知り合いに頼むのが例年だそうですが、本校ではそのやり方は非常に難しい事でした。

そこで、今年度は長年の会則を根本から見直し、本校ならではのしっかりとしたルール作りをし、保護者の皆さんに納得してもらいたいという思いで、何度も話し合いの場を設けてもらいました。

役員というのは、誰もやりたくないことで面倒な事です。保護者目線をもっと理解してほしいと、何度も何度も学校に伝え、今まででは考えられないような内容を、学校には受け入れていただきました。本当に私たち役員にとっては、大変な1年でしたが、学校側にとってもそうであったと思います。

コロナ禍で世界中が生活様式を変えてきたように、今までの学校の在り方、保護者のあり方、ルールや規則を見直す時期に来ているのではないのでしょうか。

今まで当たり前だったことに「本当にそれでいいのか？」という目を持ち、変わっていく事、挑戦していく事、声を上げていく事を恐れず、面倒がらず、一つ一つ丁寧に解決して行く時代に移行しているのだと思います。

ルールは、その時一番必要なことを統一するために必要な決め事です。決めることと同じように、見直すことも必要なことです。

ぜひ、変わる事。変化することを面倒がらずに、時代に合ったルール作りをしていきたいものです。

最後に、平林校長先生や小高教頭先生、関係者の皆様にはご協力感謝いたします。

大変な保護者代表だったと思いますが、本当にありがとうございました。



あいさつでつながる心

校長 平林 洋一

松本筑摩高校の多くの教室には同じメッセージが貼られています。そのメッセージには

「あいさつでつながる心」

- ㊦ (明るい声で)
- ㊧ (いつでも)
- ㊨ (さきに)
- ㊩ (つたえよう)

とあります。

私たちは濃淡・多少の差はありますが、誰かと関わり合いながら生きています。私はあいさつには相手と関わるきっかけにもなる「私はあなたの存在を意識しています」というメッセージが含まれていると考えます。あいさつを交わすことにより、お互いの気持ちや和らいだり、少し距離が縮まるように感じたりすることから、あいさつには人との関わりを促す潤滑剤としての一面もあるといえるでしょう。私は昇降口や廊下などで出会う人とのあいさつから、その人の温かさやエネルギーを感じたり、「何か悩み事があるのかな」と心配することもあります。あいさ

つはその人の状態を表すともいえるでしょう。また、あいさつができることは、日々の生活を支える大切な土台であると感じています。人の心の扉の取っ手は、その人の内側にしか付いていないと考えます。本校で過ごすお子様が友達、一緒に過ごす人、やがては初めて会う人に対しても、自然にあいさつを交わす心のスイッチが入るように「あいさつでつながる心」のメッセージを伝えてまいります。

「たかが あいさつ されど あいさつ」。松本筑摩高校で過ごす全ての人が、ホンモノのあいさつを身に付け、互いの存在を認め合い、安心した雰囲気の中で日々の高校生活を過ごす、さらに社会に出た時に良いスタートとなるように、「あいさつでつながる心」に込められたメッセージを学校として大切にしていきたいです。

むすびになります。教育振興会長の赤塚聡子様をはじめ、振興会役員および会員の皆様には今年度もコロナ禍による影響がある中で、本校の教育活動にご理解とご協力くださり、ありがとうございます。2023年（「癸卯（みずのとう）」）は、「これまでの努力が実を結び、勢いよく成長し飛躍するような年になる」と言われています。皆様と学校が、新時代を切り拓くお子様の成長を支える両輪となり、お子様が力を伸ばす年となることを願い、あいさつとさせていただきます。

生徒のために

定時制夜間部教頭 齋藤 善治

教育振興会の会員各位におかれましては、日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。本年度も残りわずかとなりましたがいかがお過ごしでしょうか。

さて、本年度は、8月に本校の最大の行事の一つでもある、くれき野祭が開催されました。新型コロナウイルス感染症の影響で入場制限にご協力いただいたの開催となりました。教育振興会恒例の模擬店（焼きそば店）出店はかないませんでしたが、生徒たちが一生懸命に企画し、準備、運営している姿や作成した作品をご覧いただけたことは、生徒はもちろんご来場いただいたご家族の皆様にとっても大変有意義なものであったものと感じております。生徒たちや生徒会顧問も久しぶりの公開開催ということに加え、様々なコロナの影響もあり、大変苦労したと聞いております。今回は夜間部も生徒会役員を中心に企画運営会議から一緒に参加しオープニングセレモニーや夜間部企画の「ニューススポーツ体験コーナー」でも文化祭を一緒に盛り上げました。初めての

経験で手探り状態でのスタートでしたが、全員がそれぞれの持ち場で責任を果たし一生懸命参加しました。企画は大成功。準備の段階では、様々な不安との戦いでしたが、生徒会役員が全員をまとめ何とか当日を迎えることができました。このような活動（チャンス）を一つずつ経験しながら少しずつ大きくなっていく姿を見ることができました。日々の成長はスモールステップでよいと思います。それを積み重ねることで卒業する頃には、入学時には想像できないほどの達成感や満足感を感じそれが自信へと変化していつてくれることを祈りたいと思います。

このような行事を通し、生徒の成長を間近で感じることができることは大変幸せに思います。同じ場所で同じような活動をしている通常の生活の中では、日々あまり大きな成長は感じられないかも知れません。それどころか、もしかすると「大事なサインまで見落としてしまっている」ということもあるかもしれません。家庭と学校が連携し、車の両輪となり、生徒のためにその成長を支え、生徒と家庭そして学校が同じ喜びを共有できるよう、教職員一同努力していきたいと考えておりますので、教育振興会のご協力を、これからも引き続きよろしく願いいたします。

念願の…

教育振興会副会長 高畑 千恵

初めに個人的な事で恐縮ですがお話しします。

年末年始にかけて私の所属する会社は繁忙期で多くのアルバイトさんの協力で乗り切る事ができました。転職して初経験のため気が張っていたせいか、10日も過ぎた休日の前日夕方に帰宅して一時間後、疲れから睡魔に襲われて記憶がなくなり、途中主人と息子の声が聞こえたけど気付けば朝になっていました。今の会社に入社してから平均4時間の睡眠状態だったのでやりがいのある仕事として充実していたのに体は限界だったのです。眠っている間、夜勤から帰宅した後、アルバイトで10時過ぎに帰ってきた息子の食事を用意し、更に洗濯と後片付けもしてくれた主人にこういう時に家族って有難いし、大事ななあと痛感しています。

さて本題に入ります。昨年8月、念願のくれき野祭が実現しました。身内のみの開催でしたが各クラスや部活等で大半の生徒が初の試みなのにそれぞれに工夫され当日は会長ともう一人の副会長と観覧し、時には本気モードで弓矢を放ったり又、数々の出展作品に躍動感や心を掴まれた物もあり大盛況だったと感じました。そして、来年以降は更に盛り上がるよう私達も応援していきます。

今年も皆さんが悔いの残らない最高に一年になりますように。

ゆずりは

教育振興会副会長 長嶋 ひとみ

「ゆずりは」という樹木をご存じですか？漢字で書くと『讓葉』です。

『讓葉』の「葉」は、冬の間、寒さに耐えて枝に付いているのですが、春になって、次の新しい葉が出てくると、古い葉は、まだ緑なのにぼろりと落ちてしまいます。その葉は、冬の寒さから若い芽を守って、若い葉が出てきたところで自分の役目を終え去って行きます。その姿が自分の役割を全力で果たして、その「命」を次に譲っていくのだと言うことで、「讓葉」と名付けられたそうです。』

このお話は、長男が小学校時代お世話になった中村弘文校長先生の3学期末の校長講話です。校長先生はこのお話を卒業する6年生に例えました。

私はこのお話を、ここ数年の学校や教育振興会の活動と重ね合わせました。コロナ禍で思うような活動が出来ない冬のような時期でも、先生方や振興会の皆さんは相談しながら何とか出来ることをやって活動を守ってきてくださいました。

まだ、コロナの終息は見えませんが、春の兆しは見え始めました。

コロナ禍以前のような活動は直ぐには出来ないかもしれませんが、松本筑摩高校に関わるみんなが「讓葉」のように次の世代に続く学校、教育振興会にしていきましょう。

ご協力・ご参加よろしくお願ひ致します。

事務局より

本年度の理事会で新たに役員選出についての細則および申し合わせ事項が承認されました。主な内容は①役員負担と任期の明確化、②評議員を委員と改め、委員会活動を重視、③午前部・午後部、夜間部、通信制における役員負担の調整となっています。詳細は、別途保護者の皆様への通知でお

知らせいたします。

理事会での承認を受けて、新年度より役員選出に適用していくものとさせていただきます。また、新年度の総会において、細則に関わる会則の改正を審議して頂くこととなりますので、ご理解・ご協力をお願いいたします。

委員会より

保護者の課外活動

★★ 今年はこんな年に… ★★

今回のテーマは、「今年はこんな年に…」にしました。

新型コロナの流行が3年つづき、多くの皆さんもコロナと共に生活するウィズコロナの展望が見えてきているのではないのでしょうか。そんな状況から、今年をこんな年にしたい、とかこんな年になればいいな、という皆さんの願いや思いを寄稿して頂きました。
(広報委員会)

☆今年の私の目標は「健」です。

まずは「健」康に。昨年末コロナウイルスにかかり、仕事をするにしても生活をするにしても健康第一！と実感。

そして、心に関しても「健」やかに。子供達の心が健やかに、そして何か好きな事を見つけて打ち込む姿を見守れたら言う事ないです、それに尽きるかなあ。

もちろん、親の私も穏やかに見守れる様に心健やかに過ごそうと思います。それが一番難しいかも？

(夜間部3年 T)

☆「家族が健康で心穏やかな年に」

ここ数年、家族が病気になっているのでコロナも例外ではありません…。

2023年は、病気をしても軽症で、精神的にも穏やかに過ごしたいです。それぞれの立場で学校、職

場などがあり日々の生活は決して楽しい事ばかりではありませんが、家に帰ると、家庭の中では今日1日あった良い事や悪い事などをお喋りをしてスッキリして明日への活力にしていきたいです。

(1年次 T)

☆「今年はこんな年に…」というお題をいただき何を書こう…と思い悩み、2023年の干支「癸卯(みずのと・う)」はどんな年かを調べてみました。すると「冬の門が開き飛び出る」「これまでの努力が花開き実り始める」「飛躍、向上」などの文字が出てきました。

今年2023年はとても希望的な年であることが分かりました。きっと何か良い事があるような予感がします！今年は今身近な人間関係の中で、互いに励まし合い高め合い、互いに幸せになれるよう努力していきたいと思いました。

(4年次 M)

経験の大切さ

教育振興会施設委員長 宮下 亨

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。保護者の皆様もおめでとうございます。また、新型コロナウイルス感染防止の観点から様々な制約の中で子供たちなりに学校生活を楽しんでいる様子を耳にするたびに、安心して学校生活が送れるように様々な対策・工夫をしてくださった先生方・関係者の皆様には心から感謝いたします。ありがとうございました。

4年前に少しでも力になればと施設委員を引き受けて以来、校内作業を行うことが出来たのは一度だけでした。新型コロナウイルス感染が始まってからは三年間何も出来ずに委員生活も終了を迎える事となってしまいました。私としては、それ

だけが心残りです。

筑摩高校での数年間は、あっという間に過ぎた様に感じているのではないのでしょうか。高校で学んだ事や経験した事は、これから社会に出てから生かされる大切な勉強です。そしてクラブ活動や様々な行事活動を通じて出会えた先生方や多くの友人との交流、高校生活の貴重な時間と体験を過ごさせてくれた学び舎であった事を忘れないでください。筑摩高校で得たものを折に触れて思い出してきっと役に立つ日が来る事と思います。

卒業はお別れの場ではなく、人生の節目にある新たなスタートの一つです。様々な事を吸収出来るように心の扉を大きく開いて、今日からそれぞれの目標に向けて新たな一歩を踏み出してください。

皆様のご健康とご活躍をお祈りいたします。

3年振りの「くれき野祭」顛末記

教養委員長 山本 亜紀

3年前のくれき野祭では焼きそばを作った。暑い中、みんなで作業し、合間に交代で発表や展示物を見た。高校生になっても子どものイベントに関われるのはなんだか嬉しい。それから2年間は流行り病のせいで色々自粛。

今年は今までとはやり方を大きく変えた上で、保護者も参加できそうとのこと。だが、世間に自粛解除の雰囲気はありつつも実際は第7波のピークにがっかり重なってしまった。準備をしようにも実施できるか確信が持てないままで時間が過ぎていった。生徒会も先生方も初めての試みが多く無理もないが、息子から実施の概要を聞いても何だか心もとないまま、夏休みになってしまった。

とりあえず、息子が装飾担当になった自転車置き場の2階を覗いてみるが、ほぼ廃墟。

ここで飲食・販売とな!

くれき野祭は休み明け一週間後。とにかく、廃墟を再生せな!と掃除の後ペンキ塗りをすることに。ホームセンターでサンダーを借り、サビを落としてガンガンペンキ塗り。有志も手伝ってくれ、思いのほか楽しくはかどり、何とか間に合った。当日は第7波に飲み込まれ参加できなかった人も多数いたと聞かすが、保護者ブースでは障害者施設から仕入れたコーヒーゼリーやプリン、生徒会からの要望でおにぎりも販売し、何とか無事終了。悲喜こもごもの高校生活も終わりに近づいた。

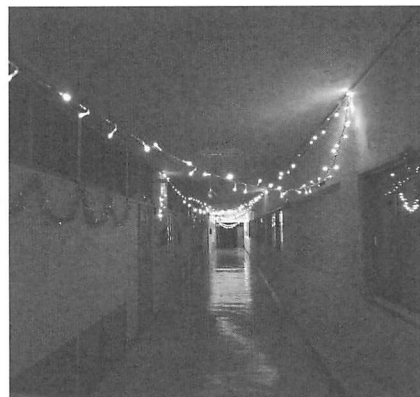
中学校へはほとんど行かなかった息子が普通の高校生活がしてみたいと選んだ松本筑摩高校。文化祭はいかがでしたか?



▲教養委員会 くれき野祭 販売企画



▲午前部・午後部 8月 くれき野祭



▲夜間部 12月 クリスマス会



▲写真部 楽 小池心海



▲漫研 3年 江端悠季乃



▲通信制 10月 くれき野祭 文化発表会

生徒の活動

生徒会

生徒会長 酒井 恭弥

あっという間に終わってしまった、2022年の生徒会。今思い返すと多くの人に助けられてばかりでした。副会長をはじめ、執行委員会の方々そして顧問の先生方、多くの人に支えて頂きながら無事1年間生徒会を運営することができました。

正直、私が生徒会長になった時、不安だった人は多かったと思います。なぜなら、パツとせず、人の前に立ったり指示を出すのが得意ではなかったからです。それは私から見ても第三者から見ても同じように見えたはずですが、最終的には「い

い会長だった」と言ってもらえ、自分自身も人としてレベルアップができたと感じています。

生徒会顧問の先生から、最後の引き継ぎ会の時に「生徒会役員はやってもやらなくても君たちは卒業できるし、普通の学校生活を送れる。だけどそれをやった君たちは間違いなく凄いよ」と言って頂きました。私はそれを聞き、ここにいる執行委員たちと1年間共に生徒会活動ができて嬉しく、誇りに思いました。

1年間という短い間でしたが、生徒会に携わった人全員に感謝をします。1年間ありがとうございました。そしてお疲れ様でした。

1年間の生徒会活動を振り返って

夜間部副会長 北林 侑土

私は昨年2年生の冬に担任の先生から誘われたことがきっかけで生徒会に入りました。過去2年間は新型コロナウイルスの影響により多くの行事が中止や規模縮小となってしまいましたが、今年度はほとんどの行事を行うことができました。昨年の11月に新体制が発足してから夜間部で行った主な生徒会行事は、12月にクリスマス会、4月に初委員会、街路清掃、5月に生徒総会、6月に前期スポーツ大会（ニュースポーツ）8月に文化祭、11月に後期スポーツ大会（バドミントン）、

学校説明会、立会演説会・役員選挙などです。

その中で特に印象に残った行事は、クリスマス会と文化祭です。クリスマス会は役員になって初めて計画・実施した生徒会行事だからです。文化祭は午前午後部と夜間部の合同で開催されましたが、私は本校入学と同時にコロナが蔓延したため、文化祭の運営にあたって分からないことが多くありました。しかし、生徒会のみんなや先生方から支えられ、何とか計画・実施することができました。

私は人前に出て話したりすることが苦手でしたが生徒会活動を経て苦手を克服し、多くの学びや体験があり、充実した1年でした。

生徒会活動を振り返って

夜間部副会長 澤頭 秋哉

今年度の生徒会活動は夜間部にとって新たな挑戦の年だったと思います。昨年度は文化祭が開催できず、代わりに夜間部だけでお楽しみ会みたいなものを上級生が企画してくれて、僕は参加する側でした。しかし、今年度は昨年度と違い文化祭が開催でき、午前午後部の生徒会役員と協力して役員会や本部企画などを考えたりしました。自分は本校での文化祭経験がないままで役員会に参加したので、何をすればいいのか正直よくわかりませんでした。午前午後部の方達がサポートして下さり、とても楽しい文化祭になったので共同開催できて本当に良かったと思いました。

夜間部の生徒会活動では主にスポーツ大会(前期・後期)、クリスマス会などをやりました。スポーツ大会では順位を争い、上級生・下級生関係なく楽しめるようなものを企画しました。

前期スポーツ大会ではニュースポーツをやり、後期スポーツ大会ではバドミントンをやりました。みんなに楽しんでもらえて、とても良かったです。

クリスマス会ではスノードーム作り、ビンゴ大会などを企画しました。スノードーム作りはやった事がない人がほとんどで、みんなから「いい思い出になって良かった」と言われ、時間をかけて準備した苦勞が報われました。

私は来年度も副会長ですが会長をサポートできるように頑張りたいと思います。

今年度の通信制生徒会を振り返って

通信制生徒会長 中村 人和

今年度の通信制生徒会は様々な工夫を凝らしながら行事の運営を行いました。

特に今年度最も工夫したポイントは、各行事での準備段階です。今年度は役員として活動した人数が例年以上に少なく、生徒総会や運動会では総力戦になることもありました。そのような状況でも、準備からトラブルなく成功できたのは、頼りになる役員の人たちがいたからです。とりわけ、生徒のみで計画を立てる時に、いつも協力的で且つスピーディーに決定することができたのは、今年度の生徒会の強みでした。このことは個人的には良い思い出で、協力することの大切さを改めて感じる機会となりました。

また、今年度の大きなトピックとして、三年ぶりに開催された長野西高等学校との交流会があります。リモート形式となってしまった所は残念でした。しかし、互いの学校の生徒会活動についてやその課題、来年度に向けてなどが話し合えて、とても良い時間となりました。印象に残っているのは、最初は初対面だったこともあり堅い雰囲気だったのが、交流会を続けていくうちに柔らかい雰囲気になったことです。私はコミュニケーションをとっていくうちに場が和んだのだと感じました。これは今後の生徒会活動にも活かせることであるので、来期の生徒会役員にも大事にしてもらいたいと思います。

来年度の生徒会は役員が一新されるため、今までの形にとらわれない生徒会を作ってもらいたいと思います。

部活動

リベンジ

通信制 住 凜華

私は、令和三年度の全国高等学校定時制通信制体育大会の陸上競技大会は、新型コロナウイルス感染症の影響によりやむを得ず棄権することになりました。

そして令和四年度、陸上競技の全国大会は公認記録を得て出場することができました。私の今までの陸上人生の中で一番大きな舞台となりました。前回棄権することになった二種目の円盤投げと砲丸投げに今回出場しました。円盤投げと砲丸投げ共に予選一位通過し決勝へと進みました。今までの一日一日の努力の積み重ねを信じ、それを自分の中で自信につなげ、決勝へ臨みました。円盤投げの決勝は二回目に投げた記録が優勝記録となり、ベスト8に残った8人は全員投げ終わった後、私の優勝が決まりました。砲丸投げもベスト8で5投目に投げた記録が準優勝記録となり準優勝することができました。

2種目共に入賞することができ、リベンジすることができました。ここまでこれたのは、家族の支えや応援、周りの方々の協力、そして顧問の杉原先生のお力添えがあったからこそその優勝と準優勝だと思います。全国大会という大きな舞台で悔いなく力を発揮できたことは、今までの人生でつまずいてきたことへのリベンジともなりました。この経験を生かしこれからも陸上競技に携わりたいと思います。全国大会に出場できたことを誇りに思い、これからの人生も謳歌していきたいです。

インターハイに出場して

定時制午前部午後部3年A組 平林 稜琉

今年度、ボクシング競技（ライトフライ級）でインターハイに出場しました。長野県大会（6月4日・丸子修学館高校）と北信越大会（6月18日・新潟市）を通過し、7月27日から高知県南国市で開催された全国大会に進むことができました。

会場には全国から大勢の選手が集まり、熱気に溢れていました。最初の計量の際には、周りにいたすべての選手がとても強そうに見え、緊張してしまいました。自分では「落ち着け、落ち着け」と言い聞かせていたつもりでした。しかし今、振り返って考えると、試合中は思うように体が動かしていなかったと悔やまれるところもありました。

残念ながら試合は一回戦で敗退してしまい、もっとたくさん試合をしたかったという思いがあります。でも、全国大会の中で得たものが沢山ありました。その中でも、特に強く感じたことは、「ボクシングは『個人戦』ではない」ということです。決して一人で戦っているわけではない、先生方や周りのサポート無しでは試合は成り立たないし、一緒に戦う『チーム戦』だと強く感じました。

これからも、支えてくださる周りの方々に感謝しつつ、まい進していきたいです。来年度もインターハイ出場を勝ち取って、一戦一戦を大切に戦っていきたいです。

令和4年度 運動部大会結果

中信高等学校定時制通信制総合体育大会

場所: 松本筑摩高等学校 (5/21)

●バドミントン

男子ダブルス 須山セリノ和広・山本海斗 優勝

男子個人 山本連・上條優人 2位

フリオネオ・新保アム海人 3位

赤羽悠太・功刀祐希 3位

伊藤まい・武川愛実 優勝

女子ダブルス 須山セリノ和広 優勝

山本海斗 2位

山本連 3位

上條優人 4位

伊藤まい 2位

武川愛実 3位

●卓球

男子個人 滝沢 仁士 優勝

桑崎 晃次 2位

望月 武尊 3位

重野 大輝 4位

女子個人 窪田 優奈 優勝

長野県高等学校定時制通信制総合体育大会

場所: 上田高等学校、上田千曲高等学校、上田古戦場公園テニスコート (6/11)

●男子バスケボール

2位

●卓球

男子団体 窪田 優奈 2位

女子個人 窪田 優奈 3位

●ソフトテニス

男子個人 高田大地・波多腰淳也 3位

男子ダブルス 須山セリノ和広・山本海斗 優勝

女子ダブルス 伊藤まい・武川愛実 2位

●バドミントン

男子ダブルス 須山セリノ和広 優勝

男子シングルス 須山セリノ和広 優勝

全国高等学校定時制通信制総合体育大会

東京都: 駒沢オリンピック公園総合運動場 (7/31~8/3)

女子円盤投げ 住 凜華 (通信) 予選 33m79

決勝 33m01 優勝

女子砲丸投げ 住 凜華 (通信) 予選 9m26

決勝 9m50 2位

●卓球

東京都: 駒沢オリンピック公園総合運動場 (7/26~7/28)

女子個人 窪田 優奈 2回戦敗退

●ソフトテニス

千葉県: サニーテニスコート (8/8~8/10)

男子個人 山下大夢・三村悠人 1回戦敗退

高田大地・波多腰淳也 棄権

●バドミントン

神奈川県: 小田原アリーナ (8/16~8/19)

男子団体 須山セリノ和広・山本海斗・山本連・上條優人

3回戦敗退 (ベスト16)

男子個人 須山セリノ和広 2回戦敗退

山本連 2回戦敗退

北信越高等学校定時制通信制総合体育大会

場所: 新潟県 (10/15~16)

※新型コロナウイルス感染拡大のため中止

●バドミントン

男子個人 須山セリノ和広 優勝

山本連 2位

上條優人 3位

澤頭 秋哉 (夜間) 3位

女子個人 後藤 那和 優勝

丸山 悠舞 2位

伊藤 まい 3位

●卓球

男子個人 桑崎 晃次 2位

滝沢 仁士 3位

重野 大輝 4位

女子個人 窪田 優奈 2位

長野県高等学校総合体育大会

場所: 丸子修学館高等学校 (6/4~5)

●ボクシング

男子ライトフライ級 平林 稜琉 優勝

北信越高等学校総合体育大会

場所: 新潟県立新潟南高等学校 (6/17~18)

●ボクシング

男子ライトフライ級 平林 稜琉 出場

全国高等学校総合体育大会

場所: 高知県南国市立スポーツセンター (7/27~8/2)

●ボクシング

男子ライトフライ級 平林 稜琉 1回戦敗退

令和4年度 文化部の活動

●書道部

第75回長野県書道展

武捨光士郎 金賞

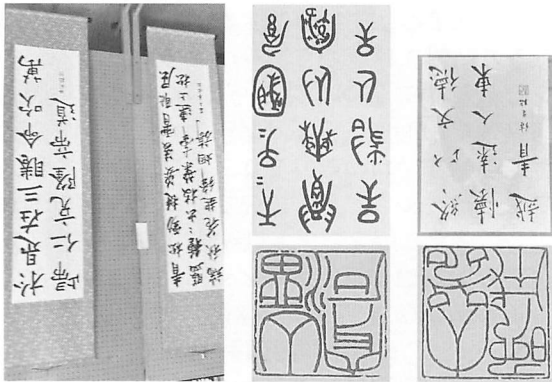
小島 結生 入選

待井 彩加 入選

第38回長野県高等学校書道展 出品

第39回中信高等学校書道展 出品

島立芸術文化祭 出品



●写真部

第25回中信地区高校写真展 展示

長野県生活体験発表会 ポスター写真